

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



9月の銅の概況及び10月の見通し (2)

予想レンジ

LMEセツル 9,000-10,000ドル

建値 130万円-154万円

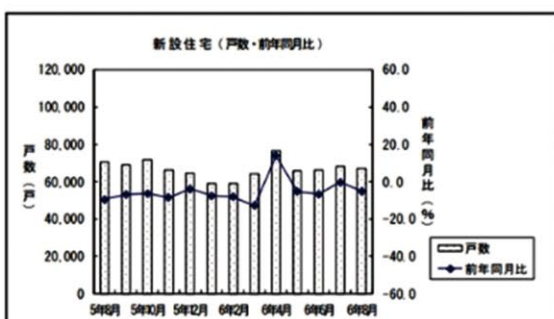
為替 140円~150円

(1か月間TTM)



円高

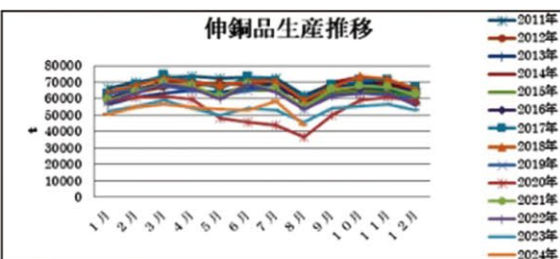
新設住宅 (戸数・前年同月比)



出典 国土交通省統計

【伸銅品生産】

8月伸銅品生産量速報値は4万4,050トン、前年同月比3.5%減少した。8月より稼働日が減少した企業が多かったが、それでも2024年8月の伸銅品の生産量は、14品目中8品目が前年同月実績を上回った。

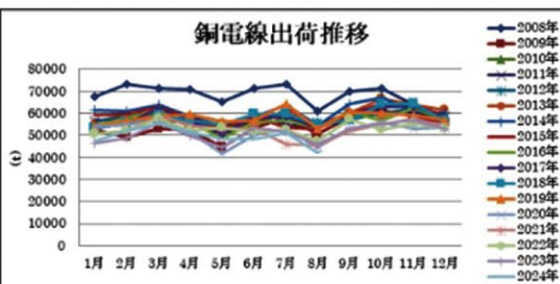


出典 日本伸銅協会

【日本電線工業会発の出荷速報 (推定)】

前年比-10.3%の42,100 t。

内訳は国内が-11.1%、輸出が+40%。



出典 日本電線工業会

◆貿易関連指標

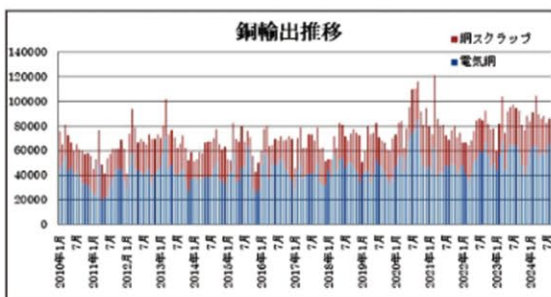
【輸出】

電気銅は+1.8%の6万5,340 t。

スクラップは-32.6%の2万372 t。

輸出	6月	7月	8月
電気銅	6万 1367 t	5万 5479 t	6万 5340 t
前年比	-5.4%	-12.6%	+1.8%
スクラップ	2万 6616 t	2万 6605 t	2万 372 t
前年比	-11.4%	-22%	-32.6%

輸出推移



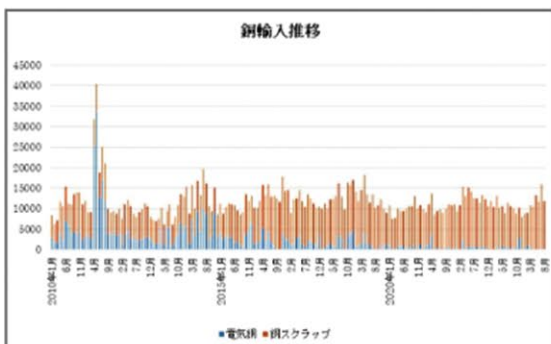
【輸入】

電気銅は-80%の94 t。

スクラップは+60.4%の1万1,819 t。

輸入	6月	7月	8月
電気銅	229 t	323 t	94 t
前年比	-48.4%	-55.6%	-80%
スクラップ	1万 1546 t	1万 5571 t	1万 1819 t
前年比	+35.1%	+45.5%	+60.4%

輸入推移



出典 財務省貿易統計

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると8月の自動車生産台数は前年比+0.8%の51万3,187台。

輸出は前年同月比-17.6%の27万6,842台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると9月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-2.4%の27万4,378台。

(次頁へつづく)

【伸銅品生産】

自動車の端子コネクタ向けの需要が増えて、銅条などの生産プラスを大きくけん引している。一方、半導体は、民生用の需要回復の話題が出てきているが、リードフレームの生産増加につながっていないため、伸銅品へのプラス効果が見えない。

ルームエアコンの夏場の売れ行きは好調で、在庫も減ったが、在庫補充に繋がらない。住宅着工やリフォーム件数は低調である。データセンター向けの半導体や蓄電池関係の伸銅品需要に明るいニュースが張ってきている。

銅条: 同比5ヶ月ぶりマイナス。夏季休暇を増やした会員企業が多く、稼働日の減少の影響も対前年比マイナス要因に加わっている。自動車端子コネクタ向けは引き続き伸びている。データセンターやサーバー向けの需要も良い。

半導体向けは、デジタル機器や家電関係の需要回復が見えてこない。JEITAがパソコン買い換え需要増加を述べているが、伸銅品の需要は増加につながっていない。

黄銅棒: 同比2ヶ月ぶりマイナス。新規住宅着工件数が伸びない。リフォーム関係は非接触の水栓と温水便座向けの需要が伸びている。しかし、ガス機器向けは、国が進める給湯器補助金による需要を期待したが、伸びて来ない。自動車の継ぎ手向けは、データ不正問題の影響を受けている。

【見通し】

【自動車】

販売が再び減少、生産は2カ月増加。

ここ数カ月増加減少を繰り返しておりコロナ挽回生産の目はなくこの水準での落ち着く。

【伸銅品生産】

自動車の端子コネクタ向けの需要が増えて、銅条などの生産プラスを大きくけん引している。一方、半導体は、民生用の需要回復の話題が出てきているが、リードフレームの生産増加につながっていないため、伸銅品へのプラス効果が見えない。

【電線】

3カ月連続減少、今後に注視。

【スクラップ景況予想】

銅建値が139万から133万へ下落するも最終145万に回復。前月在庫分は伸銅品生産減、発生減から在庫薄。長期在庫分は相場の不安定により売れず買えずの膠着状態。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。

①中国の景気動向

預金準備率の引き下げや不動産市場に安定化を図る支援策を打ち出すなど一連の景気刺激策が中国経済を支える可能性が高いのではないかと

②米FRBの金融政策


予想通り9月のFOMCで0.5ポイントの利下げを行った。その後パウエルFRB議長は9月30日、米経済が堅調な足取りを維持していることから金利引き下げは「時間とともに」進むと発言。利下げはほぼ織り込み済みだが問題は幅、雇用統計やイスラエル問題が台頭しているため利下げ幅縮小か？

これらを踏まえた今月の銅価格は9,000-10,000ドル(セツル)との予想。

ドル円値は140円~150円(TTM)台を予測。

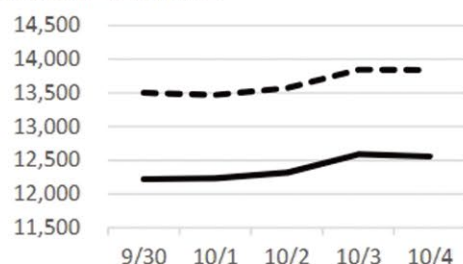
銅建値に関しては130万-154万円程度と予測。

(「9月の銅の概況及び10月の見通し」おわり)


金銀山元建値週間推移

9月30日~10月4日

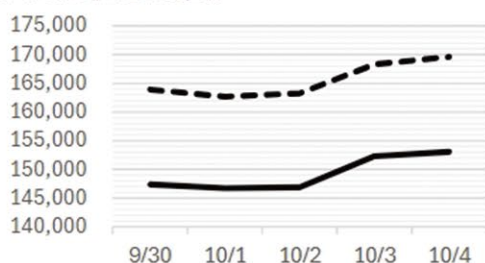
金山元建値週間推移



	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4
--- 金小売	13,499	13,470	13,569	13,844	13,841
— 金建値	12,218	12,233	12,315	12,588	12,555

9月平均	建 値	小 売
金(¥/g)	11,840.31	13,049.15
銀(¥/kg)	139,530	155,190

銀山元建値週間推移



	9/30	10/1	10/2	10/3	10/4
--- 銀小売	163,900	162,690	163,240	168,300	169,620
— 銀建値	147,350	146,740	146,900	152,320	153,040